

景況感調査「沖縄点気」

～2014年6月調査～

～70点でやや好調 観光、建設関連がけん引。消費税増税による影響は限定的～

今回の6月調査では、前回3月調査に比べ2点高い70点となり、やや好調の状態が続いている。国内外観光客は堅調に増加し、個人消費は消費税増税により一時的な消費の減少はあったものの、比較的短期間で回復から増加に転じた。一方、各方面で人手不足が顕著に現れてきた。人材の高齢化や事業拡大を見据え、さまざまな手法で人材を募集するも応募者が集まらない状況になりつつある。

関連分野別動向

観光関連 前回73点→今回75点

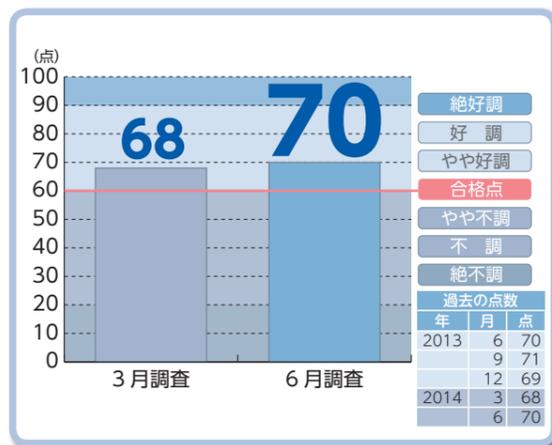
4～5月の入域観光客数は昨年比プラス約13%。外国人観光客に至ってはプラス50%以上。向こう数カ月間の予約状況も好調。大手旅行会社や県内関連事業者によるキャンペーン展開による効果も出ている。需要取り込みのため、人員増加を図る事業者も出てきたが、募集をかけても応募者が集まらないケースが発生し始めている。

建設関連 前回70点→今回76点

消費税増税後一服感が見られたが、8月頃からは昨年度末に発注された公共工事が動き出すため、人材獲得が一層困難になると予想される。

食品関連 前回67点→今回64点

現状では、消費税増税後も消費動向に大きな変化は見られない。ただし、原材料やエネルギー価格の高騰は続いており、事業者側の利益が減少す



る傾向が続いている。

消費・サービス関連 前回63点→今回59点

消費関連の売り上げは、梅雨の影響はあったものの前年比増加傾向にある。IT関連では人材不足状況の長期化が懸念される。

「沖縄点気」…数字による客観的評価と、経営者の心持や社会情勢等を合わせて、沖縄の景況感を100点満点で評価したもの。経済データ分析に基づいた経済指標評価、県内企業30社へのヒアリング調査、社会情勢評価など、独自の手法により、それぞれ100点満点で評価し、加重平均することにより沖縄点気を算出。



経済指標評価

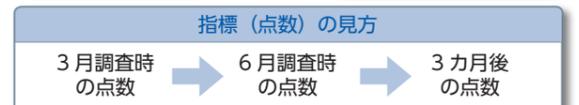


	3月調査	6月調査
経済指標総合評価	71点	77点
観光関連	77点	80点
建設関連	73点	90点
食品関連	70点	70点
消費・サービス関連	63点	63点

ヒアリング評価

観光関連は、ホテルやバスなどの集客状況が好調。向こう数カ月間の状況も昨年以上。建設関連は、マンション販売やアパート建設が好調に推移している。新たな市場として、リフォーム需要や中古住宅販売に力を入れる事業者も出てきた。食品関連は、消費税増税による売り上げへの影響は少なかったようだ。但し、様々なコストが上昇しているため利益率の低下が続いている。消費関連では、梅雨が長引いたことによる衣料販売の低迷がみられたが、総じて売り上げは好調に推移している。

※ 2014年3月調査時の点数が“-”の事業所は、前回調査非対応先



	3月調査	6月調査	3カ月後
ヒアリング総合評価	68点	65点	70点
観光関連	71点	74点	83点
建設関連	68点	70点	71点
食品関連	65点	59点	69点
消費・サービス関連	65点	57点	59点

観光関連



「ホテル」 90点→90点→80点	売り上げはリーマンショック以前の水準まで回復しつつある。7～8月以降も航空便の増便されるため好調さは持続しそうだ。慶良間諸島の国立公園化により、慶良間向けのツアープランが増加。それに伴う那覇市内ホテルへの宿泊客数が増加傾向にある。
「ホテル」 70点→50点→75点	宿泊、料飲ともに前年度を下回った。宿泊では、修学旅行の獲得が不調であったことが主な要因。向こう数カ月の予約状況は前年並み。外国人観光客は2倍程度にまで増加。間際に予約してくる客も多いと想定され、台風の影響がなければ好調に推移するだろう。
「旅行会社」 -点→90点→95点	売り上げは前年比約2割の増加。今後の予約状況も良い。利益率も良い状態が続いている。円安基調だけでなく、旅行先として沖縄の競合となる近隣のアジア諸国での事件・事故なども沖縄を旅行先として選ぶ要因となっているようだ。
「旅行会社」 80点→90点→95点	台湾企業から大型の社員旅行の受注、クルーズ船客の受け入れが増加したことで、業績は好調。アセアン諸国からの受け入れが全体の1割程度にまで増加している。ただ、ホテル客室数が飽和状態にあり、販売を抑制するケースも出始めた。
「旅行会社」 60点→60点→100点	国内市場では一部の市場が東北や海外旅行へ流れたこともあった。海外市場では台湾客が半数近いなか、中国客の回復が目立つ。シンガポールなどアセアン諸国からも増えている。台湾と沖縄間を結ぶ航空便増加が主な要因。
「交通」 70点→70点→65点	予約状況は芳しくなかったが間際予約が多く入り、社員旅行などの一般団体客が順調に受注できた。定期観光バスの人気も年々上昇しているため、売り上げは好調だ。今後の予約状況も良く、閑散期なりに好調さを維持できそうだ。
「レンタカー」 70点→75点→80点	個人客と法人客が伸びている。個人客はレンタカーとホテルを別々に予約するケースがみられる。予約状況は8月半ばまで満車。9月も前年を上回っている。増加する観光客に対し空港のキャパはパンク状態。お客様を空港の外で待たすなど無理を強いる状態が発生している。
「ウェディング」 60点→65点→68点	新しくオープンしたチャペルでは比較的リーズナブルな価格で挙式を行えるため、実績・予約ともに順調。事業の一部を海外のグループ会社に移転することでコスト削減を図っている。今後はリゾートウェディングだけでなく県内市場に注視した商品開発を検討している。

建設関連



「建設資材」 75点→65点→70点	人手不足や資材価格の高騰などに一服感が出てきた。8月頃からは昨年度末に受注した工事が動き始めるため、再び人手不足状態になりそうだ。どの企業においても人手不足が大きな課題だ。建設業は3Kのイメージが定着しているため、人材獲得は大きな課題だ。
「建設資材」 65点→70点→65点	前期決算は十数年ぶりの良い結果となった。南部地域で本土医療関係事業者とタイアップした事業を展開しており、今年の秋にはオープンする予定。新築戸建て需要の伸びには限界があるため、リフォームや中古住宅需要の取り組みにも力を入れていきたい。
「電気工事」 -点→80点→80点	今季も昨年同様受注状況は順調だ。規模の大きな公共工事がメインであるため、好調さは今後も続きそうだ。一方で人手不足が深刻化している。人材確保のため、懇意にしている事業者との連携を一層強化している。当社からの発注額も5割程度アップした。

「建設」 60点→60点→60点	決算は前年比で良い結果を迎えられそうだ。一括交付金が昨年に比べ早めに施行されそうだが、そのための弊害もある。既存工事から人材を簡単に配置換えすることが難しいため、入札そのものが不発になるケースだ。工事発注の平準化が必要だと感じる。
「マンション」 65点→60点→70点	年明けから販売しているマンションの販売が好調。昨年夏に販売を開始した物件は、割高なこともあり当初は販売に苦戦した。最近ではコストダウンの影響が大きく、同程度の販売価格でも昨年販売された物件に比べて品質面で劣る部分が多い。
「住宅」 85点→80点→70点	ここ数カ月で10棟程度を受注。すでに昨年同月比越え。増税の影響は最小限。新しい商品を発表する予定で、さらに受注獲得に弾みをつけたい。リフォームの問い合わせも増加している。中には中古物件を購入しリフォームを施し、新築物件以上の金額になるケースもある。
「アパート」 -点→70点→70点	管理している物件の入居率は概ね高い。今年も支店を増やし営業活動強化のため人材を募集しているがまだ動きはない。北部地域で木造賃貸住宅建設を進めている。コンクリートに比べ、建設コストが低く工期が短い等のメリットがある。
「不動産」 80点→75点→80点	売上は前年同月約15%増。昨年から不動産部門の売上が好調で、現在不動産物件不足の状態である。最近では、県外大手企業が次々とビルに入居してきている。また、県外大手の飲食チェーン店の出店問い合わせも多く受けている。

食品関連



「食品製造」 -点→60点→75点	消費税増税の影響はなかった。来年、古酒の基準が改定される予定。各社とも来年に向け価格調整など独自の取り組みを行っている状況。国際線ターミナルでの売り上げが増加している。外国人観光客増加の恩恵を受けているようだ。国内線については減少傾向にある。
「食品製造」 60点→65点→65点	売り上げは前年比5%増。原材料高騰のため、今年4月から一部商品を20%値上げし、1ケースあたりの個数を減らすなど調整している。値上げによる売り上げへの影響はない。年内に3種類の新品を販売する予定。地元からも観光客からも親しまれる商品開発を模索中。
「食品製造」 54点→53点→70点	消費税増税後の反動減はあったが、土産店の売り上げは好調だった。これからの時期は夏休みや旧盆などで繁忙期になり売り上げ増加が期待できる。コンビニで販売している商品の売り上げも好調で、今後は別パッケージで一部のスーパーでも販売する予定。
「食品製造」 70点→50点→50点	売り上げは前年比約10%減少。消費税増税の影響は、当初予想していたほどはなかった。当面は円安による原材料価格の高騰が大きな課題である。また、アメリカ、県内で昨年流行した豚の伝染病（PED）も、ポーク缶詰商品などの原材料価格を押し上げる要因となっている。
「食品製造」 65点→60点→60点	売り上げは前年並み。増税直後の4月は4%ほど落ち込んだが、5～6月は持ち直した。売り上げは好調だが、低単価の商品に消費が集中しているため、利益はあまり伸びていない。原材料価格は高止まりで厳しい状況が続いている。
「漁業」 55点→55点→50点	前年不漁であったメバチマグロが多く漁獲量は前年比約10%増加している。但し、燃料価格高騰により漁を休業する漁船もある。市場を訪れる外国人観光客が増加している。特にクルーズ船寄港時に観光バスで乗り付けるケースが多い。
「農業」 60点→65点→100点	消費税増税による影響はなかった。梅雨明けが長引き紅イモの収穫時期が伸びたが、結果的に観光客が増加する夏休みシーズンと重なるため、紅イモを活用した菓子の売り上げ増加が期待できそうだ。一方で、紅イモの活用方法が菓子原料に偏っているため、他の活用方法を模索する必要がある。

消費・サービス関連



「外食」 65点→65点→60点	消費税増税後、メニュー価格の値上げを実施したが売り上げ減少などの影響はなかった。ショッピングセンター内店舗の業績は良くない。店舗数が供給過剰状態にあり競争激化が要因。重油や食材価格は高止まりしているが、食材についてはスケールメリットで吸収できている。
「外食」 60点→60点→60点	4～5月の売り上げは前年を上回り消費税増税の影響はほぼなかった。国際通りの新店舗も好調だ。SNSやクーポンを活用したキャンペーンが好調であった。但し、輸入食材価格の為替変動による影響が懸念事項となっている。
「小売」 68点→55点→60点	消費税増税により4～5月の売り上げ落ち込むなどの影響はあったが、3月の駆け込み需要でカバーできた。6月は梅雨明けが遅れた影響で衣料品や食品需要に影響がでていた。7月の始め頃まで台風襲来がなかったため、マンゴーの収穫が好調で今年は過去最高を更新しそうだ。
「中古車販売」 70点→60点→65点	売上高、販売台数、客足ともに前年並みで消費税増税の反動はなかった。特に新車販売が好調7～9月の見通しは、既存客へのアプローチとフェア開催による新規客獲得が期待できるため、昨年以上の販売増加が見込める。
「中古車販売」 60点→45点→55点	4月は販売台数が例年の3分の1、来店数は1～3月に比べ1～2割程度にまで落ち込み消費税増税の影響を受けた。5月は商談数が前年並みに戻っており、販売台数も回復途上にあるとみている。ガソリン価格の高騰により、軽自動車やハイブリッドカーの人気の依然高い。

「自動車販売」 70点→50点→55点	販売台数は5月から回復はじめ、6月には自家用車、レンタカー向けともに前年並みの水準まで回復した。客足は2月末頃から落ち込んだが6月にはほぼ回復。4～6月の累計では前年比マイナス10%程度。但し、足もとの受注状況が芳しくないことが気になる。
「IT」 60点→60点→60点	案件の引き合いは好調だった昨年と同程度であり、7～9月の見通しも昨年と同程度を見込んでいる。人材は引き続き不足している。ハローワークにも経験者採用の募集を出しているが応募が来ない。今後は新卒採用に切り替えるべきではないかと考えている。
「IT」 70点→60点→60点	売り上げは昨年比横ばいだが、利益構造改革により受注案件の選別を行ったことで、利益率も向上している。今後の見通しも、順調に推移するだろう。当社は大手企業や官庁がクライアントのBtoBの業務を行っているため、消費税増税の影響は全くなかった。好況が続いている。

社会情勢評価

入域観光客数の伸びは過去最高を記録した昨年以上に勢いがあるが航空座席数やホテル客室数はすでに飽和状態にある。また8割を超えるリピーター向けのサービスや商品が少なく、消費単価が低い状況に変わりはない。建設関連では新築マンション販売とアパート建設が好調。好調さを背景に人材獲得を進める事業者が多いが、獲得状況は芳しくない。食品製造およびサービス関連では売り上げは比較的上昇しているが、原材料価格やエネルギー価格の高騰により、利益率の低い状態が続いている。



	3月調査	6月調査		
社会情勢総合評価	67点	点	3カ月後	加算減算項目
観光関連	72点	90点	83点	7点
建設関連	71点	76点	71点	5点
食品関連	67点	69点	69点	0点
消費・サービス関連	56点	61点	59点	2点

※ヒアリング調査における3カ月後の見通しに、今後の社会情勢を弊社にて加味し、加算減算したものの

観光関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 円安続伸	1. 航空座席数、ホテル客室数、バス台数などインフラのキャパ不足
2. LCC就航・路線拡充によるFIT観光客増加	2. 観光人材の不足
3. 海外客の顕著な増加（4～5月前年比約50%増）	3. 観光産業従事者の低待遇問題
4. クルーズ船寄港数増加	4. 外国人観光客やリピーターに対応したサービス商品不足

建設関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 新築マンション販売やアパート建設需要の堅調な増加	1. 職人不足と賃金の上昇
2. 金融機関の積極的な融資姿勢	2. 資材価格の高騰
3. 本土企業による不動産物件賃貸需要	3. 不動産販売価格の上昇
4. 中古住宅販売やリフォーム需要など新しい市場への対応	4. 新しい人材育成の遅れ

食品関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. 観光客増加による売り上げ増への期待	1. 商品値上げによる、消費者離れの懸念
	2. 円安などに伴う原材料価格の上昇による原価の押し上げ
	3. 利益率の低下

消費・サービス関連



●プラス要因	●マイナス要因
1. IT業界好調による人材獲得競争増加	1. ガソリン価格の高騰
2. 観光客の消費は好調に推移	2. 世界的な生産コスト上昇に伴う販売価格の上昇の可能性
3. 人口増加による小売業の好調	